

(別紙2)

3. 助成対象事業の成果 (結果)

【事業名】 事業名のほか、A事業①②、B事業の別も記入してください

A事業①

「愛媛グローバルビジネス加速化支援事業」

【目的〈課題認識、方向性、目標、事業実施計画等〉】

本財団では、創業率の向上を目指し、えひめ中小企業応援ファンド事業や県単独事業による創業者等へ創業に必要な資金的支援や、本財団に設置するビジネスサポートオフィス、よろず支援拠点等による経営相談を行っており、愛媛県内において地域資源を活用し、地域課題を解決するビジネス（愛媛グローバルビジネス）を展開する創業・起業が増加しつつある。

このような中、更なる地域経済の活性化及び地域社会の持続的発展を目指し、創業者が展開する愛媛グローバルビジネスビジネスの早期事業化を促し、成長スピードを加速させることを目的として、経費的支援を実施する。

○支援対象者

愛媛県が実施する創業ビジネスプランコンテスト「EGFアワード」に応募し、かつ、本補助金の応募までに、県内において株式会社、合同会社、合名会社、企業組合、協業組合、特定非営利活動法人等（大企業及びみなし大企業は除く）の設立を行った、法人設立後5年未満の中小企業者

○助成率

助成対象経費の3分の2以内

○助成限度額

2,000千円以内/件

○助成期間

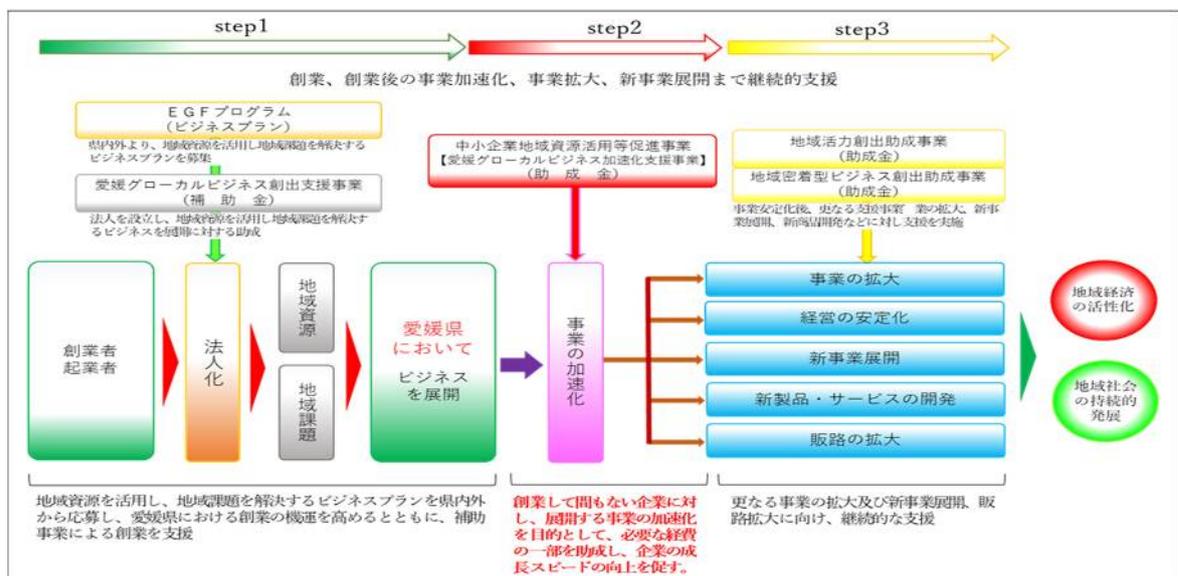
1年以内

○対象経費

人件費、店舗賃借料、原材料費、借料、知的財産権等関連経費、謝金、旅費、外注費、委託費、マーケティング調査費、広報費等

○助成件数

5件程度/年



【成果（結果）〈実施事業の内容・実績、実施した結果生まれた新たな課題等〉】

○実施事業の内容・実績

- ・助成件数
7件（応募10件）
- ・採択額
10,000千円
- ・決算額
9,995千円
- ・助成事業者一覧

（単位：円）

申請者	事業名	採択額	決算額
オプティウム・バイオテクノロジー株式会社	次世代型抗体を用いたがん免疫療法における創薬支援事業の展開	2,000,000	2,000,000
株式会社 クリエ	ライブコマースによる地方創生。	1,972,252	1,972,252
サポート KAI 合同会社	中小・小規模事業者の社員の非効率な定型業務を改善するためのプロセスオートメーション導入支援	1,500,000	1,500,000
株式会社 洒落	eQualityProject ～愛媛県の企業と首都圏の人材を「シゴト」でつなげるプロジェクト～	1,500,000	1,500,000
天神村醸造所株式会社	清酒酵母と愛媛産原料で造るクラフトラムの開発と輸出	1,317,231	1,312,807
一般社団法人 のんびり家	古民家デイサービスを活用した要介護者のお泊りサービス	1,114,457	1,114,457
一般社団法人 保育 ICT 推進協会	ICT で、保育現場に子供とゆったり関わる時間とゆとりを	596,060	596,060
計 7 件		10,000,000	9,995,576

○実施した結果生まれた新たな課題等

応募受付前に原則事前面談を実施する制度を設けた事で、入口段階の相談・検討のみで応募に至らなかった先があったこともあり、応募件数は昨年度の15件から10件と減少した。

【評価〈目標の達成度〉、数値の検証等】

年5件程度の助成を行うという目標に対し、審査委員会による審査の結果、10件の応募の中から、7件の採択を行うことができた。

採択者は愛媛県と本財団が共催する「EGFアワード」等の創業支援プログラムを活用して創業した中小企業者であり、7件のうち5件は前年度までに本財団の創業者向け補助金「愛媛グローバルビジネス創出支援事業費補助金」又は本補助金を活用して創業を行っている。創業期より創業コーディネーターや愛媛グローバルビジネスメンター等、専門家による継続的な伴走型支援の実施により、事業の加速化が実施出来ている。

【今後の進め方〈波及効果を含めて〉をどうするのか】

「愛媛グローバルビジネス加速化支援事業費補助金」は次年度は未実施である事に伴い愛媛グローバルビジネスメンターは不在となるが、本補助金の採択者の多くは「愛媛グローバルビジネス創出支援事業費補助金」の過年度の補助事業者も多く、フォローアップの必要がある場合は同補助金のフォローアップ対応や当財団のビジネス・サポート・オフィスやよろず支援拠点等とも連携し適宜対応を検討していく。

(別紙2)

3. 助成対象事業の成果（結果）

【事業名】 事業名のほか、A事業①②、B事業の別も記入してください

A事業①

「農商工連携新商品開発助成事業」

【目的〈課題認識、方向性、目標、事業実施計画等〉】

愛媛県における農林水産業は、担い手の減少、高齢化の進行等が相まって、厳しい経営環境にあり、生産性の向上や付加価値の増大による所得向上が喫緊の課題となっている。

このような中、県内の恵まれた農林水産物（地域資源）を生み出す農林水産事業者と優れた食品加工技術を持つ県内中小企業とが有機的に連携し、新たな商品開発を行う取組みに要する経費の一部を助成し、県内農林水産物の消費拡大や中小企業の事業拡大を推進するとともに、地域経済の活性化を図る。

○支援対象者

農林漁業者と中小企業者又は自ら事業を行うNPO法人等の中小企業以外の者との連携体。（ただし、連携体を構成する者のうち県外業者（県内に本社又は事業所等を有しない者）は対象外。）

○助成率

助成対象経費の2分の1以内

○助成限度額

1,000千円以内/件

○助成期間

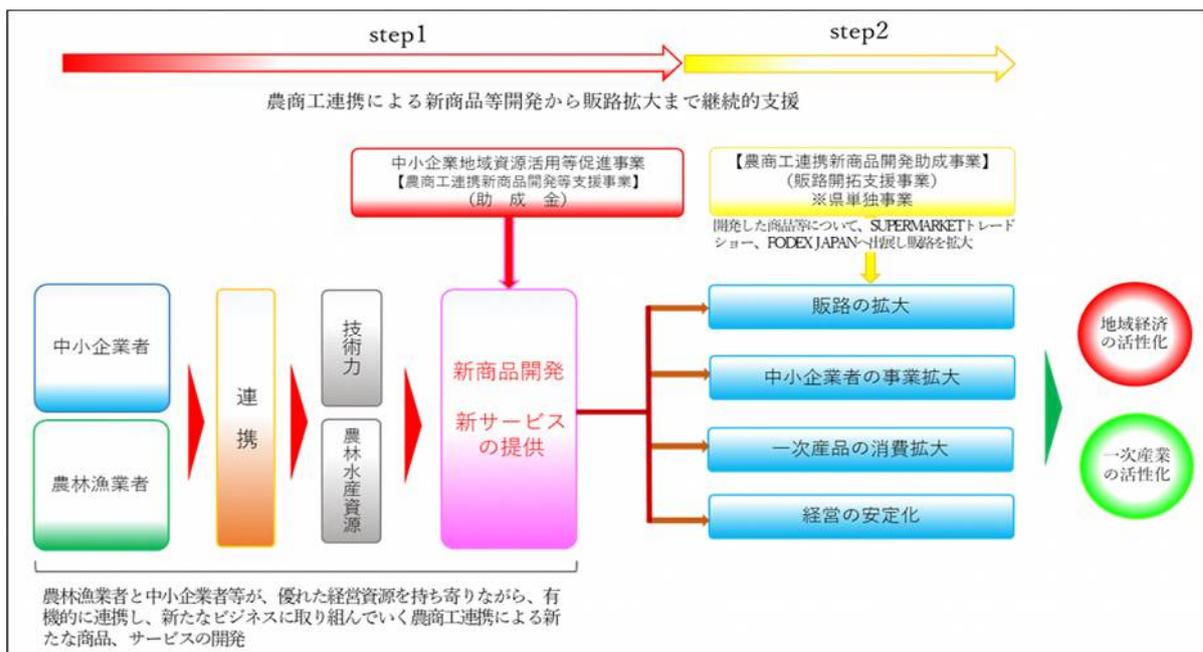
1年以内

○支援対象経費項目

備品費、原材料費、借料、知的財産権等関連経費、謝金、旅費、外注費、委託費、マーケティング調査費、広報費

○助成件数

5件程度/年



【成果（結果）〈実施事業の内容・実績、実施した結果生まれた新たな課題等〉】

- ・助成件数
6件（応募10件）
- ・採択額
5,000千円
- ・決算額
4,988千円
- ・助成事業

（単位：円）

申請者（連携体）		事業概要	採択額	決算額
中小企業者	農林漁業者			
ミカタスイツチ株式会社	内子町森林組合	愛媛県内子町産未利用材を活用したアウトドア、キャンプ等必需商品の開発・製造	740,000	728,000
株式会社愛媛海産	愛南漁業協同組合	愛南漁協の養殖魚介類（スマ、真鯛等）を活用したフードロス対応型の高付加価値常温食品の水産加工開発・製造	1,000,000	1,000,000
grandpa's tree	石鎚養蜂	西条産の果物やはちみつ等を活用した加工品開発、製造	1,000,000	1,000,000
株式会社オーシャンドリーム	山下農園	八幡浜産の果物（柑橘、柿）や鮮魚を活用した缶詰などの加工品開発・製造	917,000	917,000
企業組合高野地フルーツ倶楽部	清水農園	八幡浜市高野地産の農産物（柑橘、果物）を活用した加工品開発、製造	426,000	426,000
有限会社南四国ファーム	長谷農園 ときわ農園	宇和島産の果実（甘平・河内晩柑・レモン・キウイフルーツ）などを活用した加工食品の開発	917,000	917,000
計6件			5,000,000	4,988,000

○実施した結果生まれた新たな課題等

消費者のマーケットニーズを踏まえた新商品開発としているが、今後、テストマーケティングによる商品のブラッシュアップなどに取り組み、開発された商品の販路開拓に努めたい。

【評価〈目標の達成度〉、数値の検証等】

年5件程度の助成を行うという目標に対し、審査委員会で審査を行った結果、10件の応募案件の中から、6件の採択を行うことができた。

また、過年度（2年度6事業者、3年度5事業者）に採択し開発した商品については、いずれも販売開始しており、令和4年度の上半期の売上は合計11,000千円強となった。このうち、年間売上10,000千円超が確実な商品や店全体の売上の2割を超えて事業の柱となった商品も存在する。

今年度採択された連携体の中小企業者の多くは、これまでも県内農林水産物を活用した特徴ある新商品開発を行った実績のある企業であり、本財団が愛媛県の委託を受けて設置する農商工連携ビジネスプロデューサー等の伴走型支援により、県内百貨店のギフト商品に採用される例もあるなど着実に事業の成果を挙げている。

【今後の進め方〈波及効果を含めて〉をどうするのか】

応募件数については、前年度の9件から10件と着実に増加しており、次年度以降は従来の農商工連携に加えて、デジタルマーケティング活用、フードテック、海外販路を意識し

た商品開発へ取り組む事業者を対象に農商工連携ビジネスプロデューサーによる丁寧な制度案内等により、募集案件の発掘に努めることとする。

また、開発された新商品の販路開拓については、本財団が実施する首都圏のバイヤーを招いた商談会への参加を促したり、県が主催する百貨店等における催事への出展を促したりするなど、他事業とも連携することにより、消費者のマーケットニーズを踏まえた開発商品のブラッシュアップや販路開拓の取組みを後押ししてまいりたい。

(別紙2)

3. 助成対象事業の成果（結果）

【事業名】 事業名のほか、A事業①②、B事業の別も記入してください。

A事業①

えひめ中小企業等アクティブ・サポート事業【ものづくり産業支援事業】

【目的〈課題認識、方向性、目標、事業実施計画等〉】

県内の「ものづくり産業」全般を支援対象に、産官学が連携した研究部会を設置し、新商品の開発促進を行う。具体的には、県内ものづくり企業の新技术や製品の開発に必要な資材購入など試験費用を助成・支援する。また、新製品の企画・立案や製品開発の問題解決に関して助言・指導等を行う専門家の招へい等に対する支援を行う。さらには大型展示会の出展といった販路開拓に向けた取組みに対しても支援を行う。

この他、新たな支援企業等、新製品・新技术を発掘し、本事業終了年度以降の国の研究開発助成事業の獲得・活用を図れるよう支援に取り組み、更なる地域経済の活性化を目指す。

【成果（結果）〈実施事業の内容・実績、実施した結果生まれた新たな課題等〉】

別紙研究成果パネル

【評価〈目標の達成度〉、数値の検証等】

別紙研究成果パネル

【今後の進め方〈波及効果を含めて〉をどうするのか】

別紙研究成果パネル

「タオル専用織機による多層織りアパレル生地」研究部会

(R4)

大磯タオル㈱ オリナススタイル㈱ 繊維産業技術センター

当社においては、多重織り技術を活かして、アパレル分野へ進出できる新ブランド立ち上げに向け、新たな製品づくりに着手しているところであります。

そこで当研究部会において、当社の多層織り技術を活かし多色を表現できる技法を確立し、アパレル分野という市場において新規開拓につながる主要製品の開発に取り組みました。



- 令和3年度においては、KIKIcocoブランドの立ち上げを行い、ブランドの核となる3重織アパレル製品を作製しました。
- 令和4年度においては、使用系数並び色系の組み合わせを検討し、多色感のある6重織アパレル製品を作製しました。

本研究は、ものづくり産業支援事業により実施しました。
「この事業は、中小企業地域資源活用等促進事業の助成金を活用して実施しています」

「電動台車とアームの複合制御」研究部会

株式会社ディースピリット、愛媛大学、愛媛県産業技術研究所

電動で走行する台車にアームを付けて、問題なく統合制御する技術の確立を目指しました。

台車に取り付けたアームの位置制御は、通常の固定台に設置されたアームの制御とは異なり、台車の移動に合わせた位置決めを行う必要があるとともに、アームが動いた場合でも台車全体のバランスを制御する必要があるため、これらの問題をクリアするアーム付き電動台車の開発を行いました。

四輪台車へのアーム取付



四輪台車の上にアームを取り付け、バランスを保つことができました。同様に四足歩行ロボットにも適用しました。

いちごの収穫動作実験



開発したエンドエフェクターでいちごの収穫動作確認を園地を模した状況で行い、いちごを収穫することができました。

四輪台車の上にアームロボットを乗せて複合制御を行い、走行・アームの動作を確認することができました。また、並行して開発を行っていたエンドエフェクターについても、実際に園地を模した環境でいちごを収穫することができました。今後さらなる開発に取り組んでいきます。

本研究は、ものづくり産業支援事業により実施しました。
「この事業は、中小企業地域資源活用等促進事業の助成金を活用して実施しています」

「古紙を利用したエコプラスチック容器開発」 研究部会（R4～5年度）

神原聖史*1、真鍋元*2、曾我部裕二*2、伊藤弘和*3、湯岡陽*3、續木康広*4
*1 AIPA(株)、 *2 鈴木樹脂工業(株)、 *3 愛媛大学紙産業イノベーションセンター、 *4 産業技術研究所紙産業技術センター

AIPA(株)では、古紙とプラスチックの複合化によるプラスチック使用量の削減を目指し、プラスチック複合用古紙の開発に取り組んできました。本事業においては、鈴木樹脂工業(株)、愛媛大学紙産業イノベーションセンターらとともに、開発したプラスチック複合用古紙を電源ボックスや書類ケースなどのプラスチック容器に配合することで、脱プラスチックをアピールできる古紙配合プラスチック容器の開発を実施しました。

〇背景

持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGsゴール9・・・産業と技術革新の基盤をつくろう
SDGsゴール12・・・つくる責任・つかう責任

↓

近年、国内外においてプラスチック代替・削減の取り組みが盛んになっている。

↓

**古紙を配合し、
プラスチック使用量を削減！**

〇課題



水



油

↔

馴染まない素材
||
密着しない



古紙粉砕物
親水性



プラスチック
疎水性

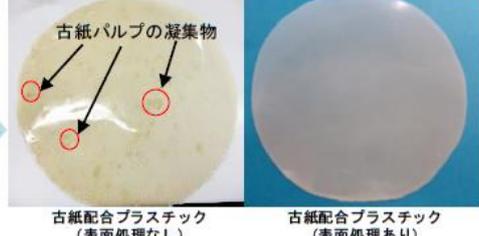
↓

パルプの分散性や相容性を向上させる表面処理に注目

〇前処理

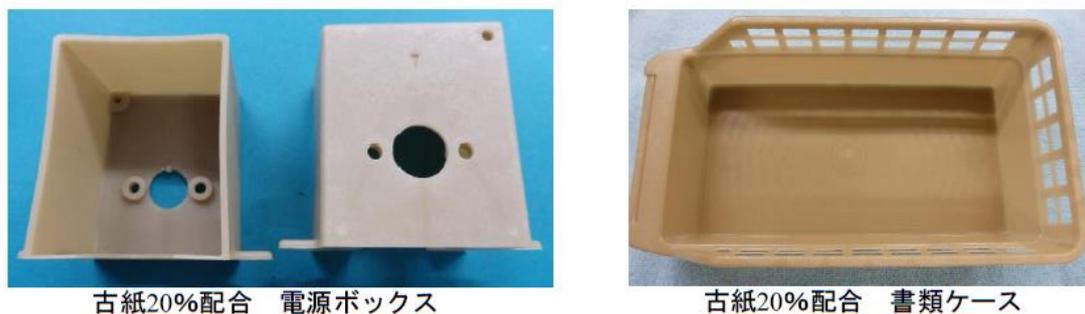






古紙を綿状粉砕にした後、表面処理を行うことで、プラスチックと混ざりやすくなり、プラスチックに配合した際の分散性が向上しました。

〇射出成型



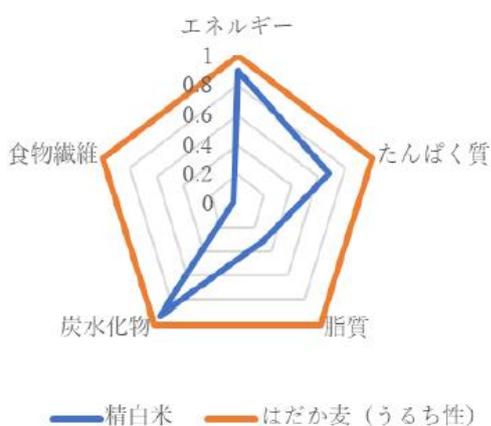
〇古紙に表面処理することで、プラスチックと混ざりやすくなり、古紙を20%配合したプラスチックを作ることができました。
〇古紙を20%配合したプラスチックは、射出成型が可能であり、電源ボックスと書類ケースを試作することができました。

本研究は、ものづくり産業支援事業により実施しました。
「この事業は、中小企業地域資源活用等促進事業の助成金を活用して実施しています」

④「はだか麦新加工技術確立、商品開発」研究部会



愛媛県のはだか麦は、作付面積・生産量ともに35年連続日本一！
 近年の健康ブームから燕麦が注目されている。はだか麦と燕麦は同等の栄養価があるものの、はだか麦の認知度は低く、利用方法・料理法など知られていないのが現状。
 本研究部会では、産・官・学が連携し、はだか麦の加工技術・商品開発の研究に取組み、需要拡大を目指す。



*栄養成分の特徴

◇はだか麦の成分分析

はだか麦の食物繊維は白米の20倍以上であり、不溶性食物繊維と水溶性食物繊維の両方が、バランスよく含まれています。

日本人の平均食物繊維摂取量は、1950年頃には1人あたり20g以上/日でしたが、穀類・いも類及び豆類の摂取量の減少に伴い、最近の報告では平均摂取量は14g前後/日となっています。

食物繊維は、便秘の予防をはじめとする整腸効果だけでなく、血糖値上昇の抑制、血液中のコレステロール濃度の低下等、多くの生理機能的効果が明らかになっています。

*参考/日本人の食事摂取基準(2020年版)

男性18~64歳の目標量は21g以上/日、同じく女性では18g以上/日と設定されています。



はだか麦バー

◇はだか麦バーの特徴

- ・はだか麦100%使用(小麦粉不使用)
- ・食物繊維6g(製品40g中)
⇒18~64歳女性の一日の摂取目安1/3以上
- ・県内産のはだか麦を使用
- ・児童から高齢者まで幅広く摂取可能
- ・常温で保存が可能
- ・日常食としても災害食としても活用可能
(①食物繊維を多く含む ②常温での保存が可能 ③軽量)



パン



チャーハン

◇はだか麦の商品開発の可能性

はだか麦100%使用にこだわり、はだか麦バー以外にも新商品(パンやチャーハン等)にチャレンジ中!

従来はだか麦100%の商品をつくるのは難しいと言われてきましたが、今回の研究部会による企業・行政等の連携の下、はだか麦100%にこだわった商品を開発することができました。米・小麦などの穀類に次ぐ第3の穀類を目指しています。

引き続き、日常・非日常を通じ穀類の1つとして利活用していただくことを目的に、商品の開発に取り組んでいきたいと考えています。

本研究は、ものづくり産業支援事業により実施しました。

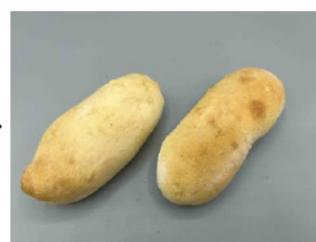
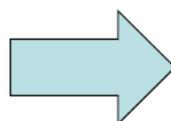
「この事業は、中小企業地域資源活用等促進事業の助成金を活用して実施しています」

「鯛骨粉を活用したカルシウム増強パン・菓子開発」 研究部会

有限会社内田パン 秀長水産株式会社
愛媛県産業技術研究所 食品産業技術センター
愛媛大学 社会共創学部

日本人のカルシウム摂取状況は摂取推奨量に届いていない一方で、消費者の食生活における健康志向は高まりを見せており、カルシウムを多く含み手軽に摂取できる食品も大きな注目を集めています。

そこで本研究部会では、地産地消のモットーの元、秀長水産(株)が製造している愛媛県産真鯛の中骨粉末 CALPEIN に着目し、手軽に摂取可能かつカルシウム高含有のパンおよび菓子類等の開発を行いました。



試作した鯛骨粉入りパン

CAPEIN
カルシウム量：約 9800mg/100g

課題点

- ・ 大きな硬い骨の塊が歯に当たり食感が悪い
- ・ 魚臭さが強い

鯛骨粉含有率	カルシウム量 (mg/100g)
0%	6
2%	144
4%	277
10%	561

※カルシウムの栄養機能食品の規格基準：204mg以上

食感の改善 → **新たな粉砕機で試験し、約30~40 μmに微粉砕**

魚臭の改善 → **鯛骨粉の焙焼で香ばしさUP
柑橘果皮の粉末を入れにの改善**

○令和4年度においては、鯛骨粉の添加量とカルシウム量の相関を調査し、最適な添加量を検討しました。また、微粉砕化による食感改善、焙焼や柑橘果皮添加による魚臭さの改善を検討しました。

○令和5年度は、天然由来添加剤によるさらなる魚臭さの改善、コッペパン以外のパン種への鯛骨粉添加の検討について行う予定です。

本研究は、ものづくり産業支援事業により実施しました。
「この事業は、中小企業地域資源活用等促進事業の助成金を活用して実施しています」

(別紙 2)

3. 助成対象事業の成果（結果）

【事業名】 事業名のほか、A事業①②、B事業の別も記入してください

A事業②

「愛媛グローバルビジネス加速化サポート事業」

【目的〈課題認識、方向性、目標、事業実施計画等〉】

地域資源を活用し、地域課題を解決するビジネスプランの早期事業化に向け、創業間もない企業が直面する課題を早期に解決し、事業化を加速させるため、愛媛グローバルビジネスメンター（以下「ビジネスメンター」という。）による伴走型支援を実施し、企業の基礎体力の向上、事業拡大、経営の安定化を目指す。

○支援対象者

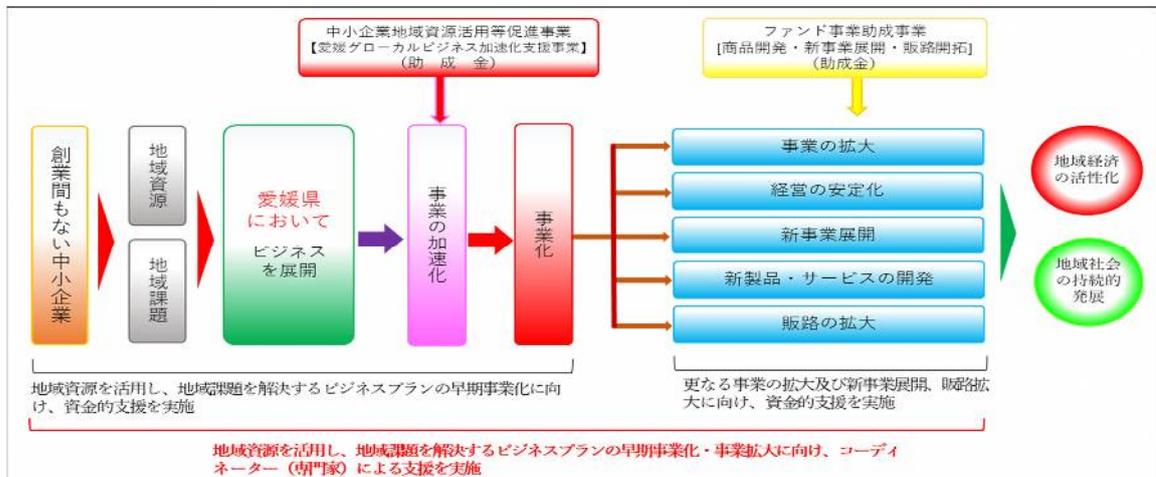
- ・令和4年度愛媛グローバルビジネス加速化支援事業費補助金の採択者
- ・法人設立後5年未満の中小企業者

○対象経費

- ・伴走型支援に必要な謝金、旅費、通信運搬費

○支援対象件数

3件程度／月 30件程度／年



【成果（結果）〈実施事業の内容・実績、実施した結果生まれた新たな課題等〉】

○実施事業の内容・実績

・支援対象件数：22 件

〔支援対象者一覧〕

支援時期	支援件数	相談内容	助成金結果
5 月	11 件	応募等相談 ブラッシュアップ	下記 7 社を採択(相談日順) ・(一社)保育 ICT 推進協会 ・天神村醸造所(株) ・オプティウム・バイオテクノロジーズ(株) ・サポート KAI(同) ・(株)洒落 ・(一社)のんびり家 ・(株)クリエ
11 月	2 件	進捗管理・実績確認	
12 月	4 件	応募等相談 進捗管理・実績確認	
1 月	1 件	進捗管理・実績確認	
2 月	2 件	応募等相談 進捗管理・実績確認	
3 月	2 件	進捗管理・実績確認	

○実施した結果生まれた新たな課題等

ビジネスメンターが関係機関等の協力を得て「令和 4 年度愛媛グローバルビジネス加速化支援事業費補助金」の応募案件の発掘に努めた結果、10 件の応募を確保し、そのうち 7 件を補助事業者として採択した。

昨年度の応募件数 15 件と比較すると件数は減少したが、本年度は補助金事務局において応募受付前に原則事前面談を実施する制度を設けた事で、入口段階の相談・検討のみで応募まで至らなかった先があったことも影響している。

応募件数は減少したが、事業者へ交付する補助金予算以上の補助金申請額は確保出来ており、競争原理を維持しつつ支援を実施した。

【評価〈目標の達成度〉、数値の検証等】

年30件程度の支援目標に対し、延べ22件の相談支援を実施した。

前年度の支援件数37件に対し減少が見られるが、前年度は事業者との接触・相談機会を支援件数としてカウントしていたのに対し、本年度は具体的な相談・支援内容を相談ファイルとして記録した明確な支援件数をカウントしている。ビジネスメンターは実態として電話や面談、メール等による軽微な相談・支援対応や、補助金の審査会・採択者説明会等の参加時も事業者と接触をしており、昨年度と遜色のない支援は実施出来ている。

【今後の進め方〈波及効果を含めて〉をどうするのか】

「愛媛グローバルビジネス加速化支援事業費補助金」は次年度は未実施である事に伴いビジネスメンターは不在となるが、過年度の補助事業者のフォローアップの必要がある場合には当財団のビジネス・サポート・オフィスやよろず支援拠点等とも連携し適宜対応を検討していく。